

京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センター紹介

人文科学研究所附属漢字情報研究センター - 助手 梶 浦 晋

漢字情報研究センターは人文科学研究所の附属研究施設で、2000年4月に、従来あった東洋学文献センターの改組にともない新たに発足した機関です。東洋学文献センターの機能を強化するとともに、情報化社会の進展に対応し、漢字文化を基調とする東洋学の資料や情報の収集・分析を行うとともに、それらを世界の学界に発信する漢字情報処理システムの研究や開発もおこなっています。



本センターは北白川の住宅地にあるスパニッシュ・ロマネスク様式の建物で、1930年に外務省文化事業部によって東方文化学院京都研究所の所屋として建てられたものです。67年に京都大学に移管され、75年からは東洋学文献センターが使用し、昨年の4月から現センターが使用しています。二階にある講堂を平時は閲覧室として利用していますが、毎年、センターが文部省と共催でおこなっている漢籍担当職員講習会

などの行事の際には講義室としても利用しています。

蔵書は本所の前身のひとつである東方文化学院京都研究所の蔵書を基礎として、今日まで継続収集してきたもので、その中心は東洋学関係の文献です。とくに中国書の収集には意をはらい、一定の計画をたてて必要文献の収集につとめています（2000年度末現在で中国書は約30万冊）。中国書は 四部書 と 新学書 にわけ整理・運用していますが、 四部書 については、中国の伝統的な分類方法を基礎として、本所独自に作成した分類に従い整理し、目録を編纂しています。現在採用している分類は東方文化学院京都研究所時代に作成されたものに若干の改変を加えたもので、日本で行われている漢籍の分類法の主流のひとつとなっています。センターでは、所蔵の文献を利用規程にしたがって学内外に公開し、閲覧、複写、参考業務などを行っています。

所蔵文献の公開のほか、センターでは文献情報活動を事業の大きな柱としています。その一つとして、『東洋学文献類目』



の編纂・刊行があります。これは、世界で発表される新しい東洋学に関する論文及び単行本を、年次ごとにまとめ、内容によって分類し、著者索引をつけたものです。

またさらに研究情報を迅速に提供するため、大型計算機センターと協力して漢籍ならびに漢字を用いた文献の情報検索にコンピュータを利用する研究を開始し、明人の人名録 CHINA1、

唐の詩人李商隱の文集 CHINA2、『東洋学文献類目』CHINA3等のデータベースを構築し、大型計算機センターよりサービスの供用を行っています。これらのデータベースのうちCHINA3は、センターHP上でも部分的に活用できるが、近く装いを新たにして公開する予定です。上記以外に、99年より所蔵の石刻資料拓本の画像データベース化に着手し、既にその一部をセンターHPで公開しています。

このほか全国各地の図書館に所蔵される漢籍の所在情報のデータベース構築をめざし、センターでは、関連諸機関と連携し、その推進をは

かり、本年度から本格的にこの事業をはじめていきます。その一環として、本年度中に上記『京都大学人文科学研究所漢籍目録』所収の漢籍の目録情報のデータベースを完成させる予定です。

また、インターネット上での学術的な漢字利用が急速に進み、現行のコード系では対応しきれない漢字利用をサポートすることに対して、内外の研究者の間から強い要求と期待の聲が上がっており、本センターでは、学術的に適正な漢字管理システムの開発研究を行っています。

(かじうら すすむ)

人事異動(平成13年4月1日付)

附属図書館事務部長	門田 泰典	文学部整理掛長	中川 治夫
総務課専門員	堤 豪範	教育学部図書掛長	山本 修
〃 庶務掛長	小西 久子	法学部閲覧掛	池田ひろ子
情報管理課長	故選 義浩	〃	石村 民子
〃 専門員	西川 慈子	経済学部整理掛長	二郷 智子
〃 受入掛	福島 利夫	医学部閲覧掛	福島美智子
〃 目録掛	江上 敏哲	薬学部図書掛	高井 まな
〃 特殊目録掛長	木村 祥子	工学部図書掛長	渡邊 誠
〃 システム管理掛	天野絵里子	工学部図書掛	舩越 清美
情報サ - ビス課長	淵上 光昭	工学部物理工学系図書室	吉田 誠
〃 相互利用掛	飯田 智子	工学部物理工学系図書室	大橋亜紀子
宇治分館学術情報掛長	菅 修一	工学部電気系図書室	赤澤 久弥
〃 学術情報掛	木村 晶子	人文研漢字情報研究センタ -	秦野 智世
総務部総務課文書企画掛	赤井 規晃	原子炉実験所図書掛	児玉 優子
総合人間学部整理掛長	慈道佐代子	東南アジア研究センター資料部図書室	北村 由美
〃 整理掛	富岡 達治		